令　和　４　年　度
宮崎国際大学　国際教養学部
総合型選抜(第１回)

試　験　問　題
【小　論　文】

受　験　番　号
氏　名

小論文　国際教養学部

問題　やまざきまりさんは漫画家で、作品「テルマエ・ロマエ」（手塚治虫文化賞・映画化）などでよく知られています。以下の文章は 14 歳のやまざきさんが母親の考えで１ヵ月間、フランスとドイツに一人旅をした体験が描かれています。やまざきまりさんはこの旅で何を得たと考えているか、また母親の考え方はどのようなものかをまとめ、「行動する」ことについてあなたはどのように考えるか、600 字以内で述べてください。

あなたには、美術はどれぐらい必要ですか。日本では「お金になるかどうか」がすごく大切な軸ですよね。芸術はあまり必要ないと思われがちです。でも、そうじゃないよ、という話をします。

私が中２の時、先生に「将来は？」と聞かれて「教科書の余白や壁に絵を描く癖がある。だから画家がいい」と答えたら、「食っていけないぞ」と鼻で笑われました。

その時、母が「フランダースの犬」の絵本をくれたのを思い出した。ベルギーで両親のいないネロという少年が、画家を目指すけど評価されない。貧しいまま、あこがれた画家の絵がある教会で、寒さの中、犬と一緒に死ぬ話。「画家になるのはこういうこと」と言う母に納得できなかった。

その時、母は本を他に２冊くれました。「シンドバッドの冒険」が載った「アラビアンナイト」と「ニルスのふしぎな旅」。子どもが知恵を出して危機を切り抜ける。私は「積極的に動かないネロがいけない」と言い、母はあきらめたそうです。

母は、お金にならなくても、オーケストラのビオラ奏者という好きな道を選んだ自由で変わった人です。「生きていれば何とかなる」と。先生に笑われて悩む私に母が「私の代わりに冬休みにヨーロッパに行って、知り合いにクリスマスプレゼントを渡して」と頼みました。

それは旅をさせる口実でした。「見てきてほしい物がある」と言われたのが、パリのルーブル美術館にあるモナリザの絵。母が大好きでした。

14 歳の私は１ヵ月間、フランスとドイツに一人旅をしました。列車の乗り方を尋ねても、中２の英語は通じず、絶望的な気分になりました。でも、急に自分の奥の方で「冷静になれ。必ず手段はある」と声が聞こえた。タクシーで乗車券を見せたら、駅に行ってくれて「意外に何とかなるな」と。ピンチにならないと人の脳みそは働かない。

結局、モナリザは黒山の人だかりで、あきらめました。その時、「ギリシャやローマの彫刻がぶわーっと並んでいるのを見たんです。「２千年も前にこんなのを作ったんだ」と衝撃を受けました。

「これだけ歳月がたっても残されていくものがある。お金にならなくても、やるべき仕事がある。それが芸術だ」という結論が私の中で出た。それを考えさせるのが母の狙（ねら）いでした。

旅の途中で出会いがありました。列車の中で、マルコさんというイタリア人のおじいさんに「家出少女か」と疑われた。説明しても信じない。さらに「絵が好きなのにイタリアに行かないのか」と。帰国後、母とマルコさんの文通が始まった。

高校に入り、「絵は趣味でいいか」と思いかけた時です。急に母とマルコさんが組んで「高校をやめて留学しろ」と言いだし、イタリアで美術を学びます。ヨーロッパの人はお金になる仕事がいいと思わない。芸術家になりたい人を応援します。

世の中、何があるか分かりません。実は私の夫はマルコさんの孫です。夫に付いて中東の砂漠の国、シリアに行き、「お風呂に入りたい」と切実に願いました。「古代ローマには公衆浴場がたくさんあったのに、なぜ今はないの」と考えて漫画「テルマエ・ロマエ」を描きました。14 歳の旅がなければ、この作品は生まれませんでした。

私は小さい時から漫画が大好きでした。空腹でも、漫画を読むと満足できました。芸術や漫画は心を満たす栄養素です。

美術の授業はとても大事な時間です。みんなが必要だと思うから、美術は古代から残っている。絵がうまいか下手かは関係ない。描きたいものを描こう。音楽も同じ。表現したいと思うことに意味がある。評価は後の話。私は自分が読みたい漫画を描いています。

ぜひ、一度は美術館に行ってほしい。絵の良さが分からなくてもいい。私は興味がなくても旅行に行かされ、扉がいっぱい開いた。自分が見ているものが世界のすべてじゃない、と知ってほしい。価値観の違いを感じられる場所が美術館です。

今は新型コロナで大変だけど、いつもはやらないことをやるチャンス。映画でも本でも、漫画でも触れてみてほしい。

待っていても、何も起きない。動き回って、行動してみてください。

（宮崎日日新聞　2021 年 8 月 12 日）

令　和　４　年　度
宮崎国際大学　国際教養学部
総合型選抜（第2回）

試　験　問　題
【小　論　文】

受　験　番　号
氏　名

小論文　国際教養学部

問題　次の文章は翻訳通訳研究家の武田珂代子さんがビジネス英語について述べたものです。武田さんはビジネス英語において何が大事だと考えていますか。また、「私がもっと難しいと思うのは『ビジネス日本語』の方です」とも言っています。あなたが将来英語を使って仕事をするとき、どのようなことに注意すべきだと考えますか。武田さんの考えをまとめ、それを踏まえて 600 字以内で述べてください。

立教大学教授　武田珂代子さん(翻訳通訳研究)

ＩＴや自動車、薬品など日本の大企業のビジネスの現場や訴訟、国際会議など、米国で 20 年以上、通訳を担当してきました。そうした場では、英語を母語としない人と英語で話す機会がよくあります。

特にＩＴ企業の多いシリコンバレーでは、アジア系の経営者やエンジニアが目立ちます。だから、ビジネス英語には、特定の国でしか使われない、しゃれた言い回しは、それほど、必要ありません。自分の伝えたい気持ちを大切にし、分かりやすい語彙（ごい）でストレートに表現する方が、むしろいいと思います。大学生たちには、「いろんな国の人の英語を聞いて練習しなさい」とアドバイスしています。

日本人の若手経営者には、英語が上手な人が増えています。しかし投資家向けの業績説明会や、製造物責任、特許をめぐる訴訟のように、複雑で潜在的なリスクの高い内容が語られる場では、プロの通訳者に任せるのが普通です。

プロの通訳者は、資料の読み込みなど徹底した事前準備が欠かせません。かつては図書館で企業の概要や年次報告書を調べていましたが、いまはネットが主流です。役立つのが、ユーチューブ。スピーカーのアクセントやしゃべり方の癖が動画で確認できるので、事前の練習に最適です。

エンジニア同士がビジネスの会話をする場合、共通の知識があり技術用語を使うので、多少文法や発音に難があっても通じます。ただ、理解できない点を放置したまま話を進めるのは禁物です。その都度（つど）、疑問点を解消しておかないと紛争の種になります。プロの私も、通訳している最中に問い返すことがあります。「話の腰を折って不信感をもたれるのでは」という心配は要りません。むしろ「きちんと理解しようと努力している」と好感を持たれます。

用心すべきなのは、カタカナ英語です。例えば「チャレンジ」という言葉は、日本では「やってみる、頑張ります」という前向きな印象を受けます。しかし、英語では「かなり難しい」というニュアンスになり、ビジネスで使うと、誤解を招くこともあります。

一口にビジネス英語と言っても、契約や価格交渉、企画のプレゼン、就職の面接など様々な場面が想定されます。それぞれの目的にあった英語表現を学ぶ必要があります。相手側の商慣行を学んだり、人種やジェンダー、宗教など今日的問題に関する基礎知識を身につけた

りすることも、ビジネスでは求められます。

　でも、私がもっと難しいと思うのは「ビジネス日本語」の方です。上司やお客様に対して使う敬語や謙譲語などの言い回しは、社会に出て初めて鍛えられるものです。英語のフォーマルな表現の比ではないような気がします。

（朝日新聞　2021・4・1　聞き手・桜井泉）